

大人も子どももひとつの自治会

第6回寿山会館まつり

自治会館の新築をきっかけに、地域の人たちが集まって地域の交流を深めようと始まった「会館まつり」。その6回目となるおまつりが、11月22日・23日の両日に寿山会館で開催されました。会場には、絵画や刺しゅうなど約150点が展示。中にはプロ顔負けの作品もありました。また、子どもたちには竹細工実践コーナーが大人気。お昼には芋煮を食べて、楽しい時間を過ごしました。

会館まつり実行委員長きくちただあの菊地忠雄さんは、「大人同士の交流の場、そして大人と子どもの接点の場になれば」と、続けていくことの大切さを話してくれました。



▲竹細工実践コーナーの様子。自分で作った竹笛の音に笑顔

晩秋の白石に響き渡る音色

やまぶきの里コンサート



▲和やかな雰囲気会場は包まれました

今年6月までNHK交響楽団の首席ファゴット奏者を務めていた岡崎耕治さんと、妻でピアニストの悦子さんによるコンサートが、11月27日にケアハウスやまぶきで開催されました。悦子さんの母親が同施設に入居していることから始まったこのコンサート。地元の下原自治会の皆さんも施設を訪れ、2人が織りなす優しい音色に聴き入っていました。最後に、悦子さんが作詞・作曲した「やまぶきの歌」を、ご夫妻の演奏に合わせてみんなで歌いました。悦子さんは「縁あって夫婦で来ることができうれしく思います」と笑顔で話していました。

「いざというとき」に備えて

南町区民が炊き出し訓練

11月14日、南町区民会館で南町区民約50人が集まり、災害発生時を想定した炊き出し訓練が行われました。

災害により電気やガス、水道、電話が使えないという状況を想定した今回の炊き出し訓練。災害ボランティアアドバイザーの黒澤司さんの指導を受けながら、牛乳パックを燃料にした炊飯方法や、災害時に忘れがちな心のケアとしての足湯の利用方法などを実践しました。

日下徳衛自治会長は、「みんなが集まることで『家族=隣近所』へと、地域がつながっていくように」と今後への思いを話してくれました。



▲「足湯の際は手のマッサージが効果的」と話す黒澤さん(写真中央)

科学っておもしろい!

でんじろう直伝! おもしろサイエンスショー



▲静電気を使った不思議な実験に、子どもたちからは驚きの声

11月10日、中央公民館で第17回白石市生涯学習フェスティバル事業「でんじろう直伝! おもしろサイエンスショー」を開催しました。米村でんじろうさんの一番弟子であるチャーリー西村さんを迎えた今年のショーには、市内の小学生約350人が訪れました。

子どもたちは、空気砲の秘密や18秒でできるペーパーブーメランの作り方、静電気を使ったおもしろ実験などを間近で体験しました。西村さんが繰り出すさまざまな実験のたびに、子どもたちからは「すごい!」「どうして?」といった歓声が会場全体にあふれていました。

風邪やインフルエンザに負けないように

9月に続き2回目の小十郎EM石鹸贈呈

平成21年3月に市民有志で発足した環境浄化EM菌の会(佐藤常世代表)が11月24日、市内の10小学校・3幼稚園・7保育園の子どもたちに、EM菌(有用微生物群)を使った「小十郎EM石鹸」350個を贈呈しました。

南保育園を訪れた佐藤代表は、「外から帰ってきたら必ず手を洗いましょう」と園児たちにあいさつ。園児たちが早速石鹸を使って手を洗うと、「つるつるになった」と歓声が上がりました。

最後に、園児たちから会の皆さんに、石鹸のお礼として元気な歌がプレゼントされました。



▲石鹸を受け取って園児たちもニコリ

地域づくりを受け継いでいきたい!

第59回東益岡敬老会



▲映像鑑賞後は、青年会の皆さんと一緒に会食

11月22日、ふれあいの館で東益岡敬老会が開催され、同地区の老人クラブ「健寿会」会員17人が出席しました。

主催は同地区青年会(渡邊浩次郎会長・会員30人)で、地域づくりの苦労や喜びを先輩たちから伺い、よりよい地域づくりを行おうと、戦後間もなくの昭和26年から開催しており、今年で59回を数えます。

今年は、昭和52年の札幌市白石区のふるさとまつりに、参加した子どもたちと太鼓山車の懐かしい映像を鑑賞しました。若かりし時代の映像に、笑顔がいっぱいの敬老会となりました。

わが家の「家庭の日」実践発表!

平成21年度青少年健全育成白石市民のつどい

11月14日、中央公民館で「平成21年度青少年健全育成白石市民のつどい」を開催し、4組の家族が「わが家の『家庭の日』」と題して、家庭での取り組みや過ごし方などを発表しました。白石第一小の黒田さん親子は、家族のコミュニケーションづくりを大切にしていること。大平小の佐久間さん親子は、子どもだけの世界から学ぶこと。白石第二小の齋藤さん親子は、共働きをきっかけに家族の助け合いが生まれたこと。大鷹沢小の細谷さん親子は、「晩ご飯は必ず一緒に」と、それぞれの家庭に合った楽しい取り組みを発表しました。



▲少し緊張しながらも、思いを熱心に発表する齋藤さん親子

少しでも交通事故が減りますように

高齢者交通安全ふれあい世帯訪問



▲訪問したお宅では、突然の来訪にも笑顔で答えてくれました

11月11日、本郷第三地区で「高齢者交通安全ふれあい世帯訪問」が行われました。白石地区交通安全協会白石支部と白石市交通安全母の会が共催で毎年行っているこの活動。この日は大雨にもかかわらず、会員13人が高齢者などの世帯約300戸を一件ずつ訪問して、交通安全を直接呼び掛けました。

高齢歩行者や自転車利用者の交通事故の大半は夜間に発生していることから、今年は特に夜光反射材の大切さを呼び掛けるなど、「直接訪問することで少しでも事故防止につながれば」との願いを込めて訪問していました。